



奥野清一さん(25歳・下市)
1児の父(1歳女)。会社員。奥さんは専業主婦。座談会出席者の中で最年少。奥さんとペアブックで会場へ。「子どもは好奇心が強いので、見たことのないものを見せるととても喜ぶ。たとえばお菓子のパッケージのふたを開けるだけでも…」と“現場”からの発言には、説得力がある。

奥野 いろいろなことを吸収していくのを見るのが楽しいですね。言葉でも、「アーアー」とか、そのうちに「とってー、とってー」とか、だんだんと進歩していく。泣いてしまうこともありますが、思いを伝えようとしていると思うし、なるべ

く聞いてあげるように努力しています。

村河 子どもは日進月歩で成長するが、何かができるようになったとき、その「第一発見者」であることは喜びです。父親だからおっぱいはやれないけど、食事は作れる。自分の作ったもので成長していると感じるのもうれしいことです。

子どもは3歳と1歳ですが、2年の差は大きい。興味が違うので、仲良く遊ばせる工夫をするのがたいへんです。

戸野 “はいはい”とかカルタとか、今までできなかったことが、できるようになったときがうれしい。そういう時はほめる。親も子どももうれしいし、楽しいと感じます。

たいへんなのは病気になるたとき。仕事との調整がたいへんです。

村河 ところで、いまの社会の問題になります。たとえば育児休暇について、男性が取りにくいシステムになっています。女性の社会参加は進んできませんが、それと表裏一体のものである男性の家庭参加は

まだまだです。ただ、実際に育児休暇を取ってみて、収入がなくなるなどたいへんですけれど、それ以上の見返りがあったと思っています。父親の存在感をアピールしたいですね。

あいさつすると人も変わる

——子育てで気をつけていることはどんなところですか？

村河 子どもの前で夫婦喧嘩はしないようにしています。(全員うなづく。司会者のみ「何度もしましたけど…」夫婦の価値観の違いは、コミュニケーションをとって調整すればいいですから。

それと、子どもたちはすぐ言葉を覚えるので、悪い言葉を使わないように気をつけています。

奥野 たしかに子どもたちの言葉は気になります。“死ぬ”“殺す”“バカ”とか。

村河 親として心がけて修正してやるのが大事ですね。
戸野 子どもは、いいことも

悪いこともわかりません。そのつど、「そういうことを言われたらどう思うかな？」と、自分で考えさせるようにしています。

村河 「なぜそんなことしたの、言ったの？」と考えさせる。それが大事ですね。

林原 人形を投げたりしたときには、「人形も痛いでしょう」と教えました。“ものを大切に”と“ありがとう”と“ありがとう”とか、礼儀についておからせるようにもつとめていきます。

奥野 礼儀は大切ですよ。最近の子どもたちはあいさつをしなくなっています。不審者のこともあるでしょうが、近所の人くらいには、あいさつさせたい。

林原 私の近所の子たちは、よくあいさつしてくれれます。あいさつしてくれると人も変わります。連れ去り事件などをなくすためにも、あいさつをして、顔見知りになることはいいことです。

奥野 人と人との結びつきが大切。あいさつをすることで子どもにも目が向きます。会話で

わりとよい関係ができ、知らない子でも見守っていいこうということになると思います。

——最近「児童虐待」がたびたびニュースになりますが、どう思われますか？

奥野 個人的には理解できません。だけど、特に奥さんなど、一日中子どもとべったりだとストレスが溜まると思いますが。

林原 私も育児休暇をとって見て思いましたが、ずっと子どもといると、言う事を聞かなくて、ついつい大声を出したりすることがありますね。

児童・家庭相談

専用電話のご案内

お電話には“児童・家庭相談員”が対応します。

ひとりで悩まず、気軽にお電話ください。

秘密は固く守られます。

電話番号 0859(54)4001

相談時間 8:30~17:00

(土・日・祝日・年末年始は除く)